

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間の健康と社会・心理的適応		NSF22_001	必修	2	2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
今村 亨		教員控室	kango		随時メールで質問等受付	
授 業 の 目 的 ・ 概 要		健康には社会・心理的側面が不可分に関わっていることを理解し、自分自身、また将来的に患者・利用者の健康と適応の増進に寄与できるようになることを目的とする。講義およびプレゼンテーションまでの過程を通して理解を深める。				
授 業 形 式 ・ 方 法		☒対面授業 ☐遠隔授業(双方向型) ☐遠隔授業(自主学習) ☒講義 ☐実習 ☐実技 ☐PBL ☒グループワーク ☐その他 () ☐反転授業 ☒プレゼンテーション ☐実習・フィールドワーク ☐ディスカッション・ディベート ☐実習・フィールドワーク				
学 習 上 の 助 言		第13回、第14回にて実践することになるプレゼンテーションに向けて、第1回～第12回の内容を十分に理解し、グループ活動に能動的に参加すること。				
教 科 書		教科書は指定しない				
参 考 書		・「助けて」が言えない SOSを出さない人に支援者は何ができるか / 著:松本俊彦 / 日本評論社 ・セルフ・コンパッション[新訳版] / 著:クリスティン・ネフ / 金剛出版				
外 部 教 材						
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	社会・心理的不適応が発生する機序とその意味を理解し、習得する				NS(1)	
②	自他共に尊重したコミュニケーションの形式を理解し、日常で実践できる				NS(2)	
③	他者の社会・心理的不適応を適切に把握し、対処することができる				NS(3)	
④	健康と社会・心理的適応を支える関係者／他業種の人々の役割を理解できる				NS(4)	
⑤	健康と社会・心理的適応についての学習・調査・研究を自分なりに進めることができる				NS(5)	
授 業 計 画						
回	学習内容等		授業方法		学習課題・学習時間 (時間)	
1	オリエンテーション／「健康と社会・心理的適応」をどう考えたら良いか		講義		第13回・第14回のプログラム発表までの構想を考える	2
2	動機づけと態度変容		講義		予防プログラムにおける動機づけと態度変容の重要性を理解する	3
3	「SOSを出せない問題」を考える		講義		「SOSを出せない問題」を理解する	3
4	人生早期の一次予防を考える		講義		人生早期に可能なストレス対策を理解する	3
5	感情コントロール		講義		資料に基づき、感情コントロールを実践する	4
6	対人関係とコミュニケーション		講義		資料等に基づき、コミュニケーションスキルの向上を実践する	5
7	みんなのトラウマインフォームドケア		講義		資料等に基づき、トラウマインフォームドケアを理解する	5
8	レジリエンス		講義		資料に基づき、自身に合ったレジリエンスを見つける	5
9	セルフ・コンパッション		講義		資料に基づき、セルフ・コンパッションを実践する	5
10	ピア・カウンセリングとクライアント中心療法		講義		資料等に基づき、ピア・カウンセリングを理解する	2
11	非常時・非日常の対応		講義		資料等に基づき、非常時・非日常の対応を理解する	4
12	質疑応答／プレゼンテーションに向けてのミーティング		講義／グループワーク		他の学生が抱いた疑問点を理解する。	2
13	プレゼンテーション①		プレゼンテーション		当日までにグループで予防プログラム内容を協議し、作成する	6
14	プレゼンテーション②		プレゼンテーション		当日までにグループで予防プログラム内容を協議し、作成する	6
15	振り返り		講義		第1回～第12回までの資料を再読し、理解を深める	5
試	達成度評価・評価のポイントを参照					

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		36	39	25	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	24	0	0	0	0	24
	思考・推論・創造する力	12	10	0	0	0	12
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	10	5	0	0	15
	問題を発見・解決する力	0	9	5	0	0	14
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	授業毎の最後に約 10 分間の「小テスト」を実施する。資料・ネット閲覧は可。各回 3%を配点する。第 13 回、第 14 回、第 15 回には小テストは実施しない(3×12 回＝36%)。小テスト中、私語は厳禁。提出方法は Microsoft Forms によるデジタル形式とする。よって本授業では PC、スマートフォン、タブレット端末などの通信機能を備えたデジタル端末が必須である。			Microsoft Teams 上に解答（解答例）を提示する。	
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
レポート	①		学期末に「学期末レポート」を実施する。39%を配点する。提出方法は Microsoft Teams へのデジタル形式とする。詳細は授業にて提示する。			各自に Microsoft Teams にてフィードバックする。	
	②	✓					
	③						
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①		第 13 回、第 14 回に実施するプレゼンテーションの内容によって評価する。プレゼンテーションはグループにて「人間の健康と社会・心理的適応」に資するプログラムを発表する。配点は 25%。グループ決定方法、プログラム内容の指針、プレゼンテーション方法、評価基準等については、別紙にて詳細に伝える。			各グループに対し、評価基準に沿った評価を Microsoft Teams にてフィードバックする。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備 考							
他 担 当 教 員		なし					
教 員 の 実 務 経 験		臨床心理士として 17 年の臨床経験、山梨県スクールカウンセラー等として 17 年勤務					
実践的授業の内容		実際の床経験を踏まえた実践的な内容とする。					
そ の 他		授業の資料は印刷して配布することではなく、Microsoft Teams 上にアップする（授業前に自身で印刷することは可）。 上述の通り「小テスト」はデジタル形式での提出とする。よって本授業では PC、スマートフォン、タブレット端末等のデジタル端末は必須である。疑問質問等もデジタル形式で受け付ける。2 コマ連続のため、デジタル端末の充電は十分に行っておくことを推奨する。					